キャラクター名: 獅子丸

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン バロール	ワークス	検怪異使A	カヴァー	武士
オプショナル		年齢	14	性別	?
覚醒	死	衝動	破壊	初期侵食率	36 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	1		0			1
精神	5		1			6
社会	2		0			2

HP	28
行動値	15
(非装備時)	15
戦闘移動	20
全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：検怪異使	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
鋸太刀	白兵	1r+9		13		
一刀修羅	白兵	10r+9		18		ｺｽﾄ6　装甲値-8
一刀修羅↑100	白兵	10r+9		18		ｺｽﾄ6　装甲値-8
一刀羅刹↑120	白兵	10r+9		18		ｺｽﾄ11　装甲値-8

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
直垂	
幽屋	
ｺﾈ：検怪異使佐	
ｺﾈ：雑色	
ｺﾈ：武士	
ｺﾈ：物の怪	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
達人	P	N		
師匠	P　好意	N 劣等感		
兄上	P　感服	N　隔意		
影鬼	P 連帯感	N 敵愾心		
牛	P 親近感	N　偏愛		
文谷 恋狐	P　純愛	N　食傷		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
灰色の脳細胞	1	(2)	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	自身の【行動値】に+【精神】する							
ﾌﾞﾘｯﾂｸﾘｰｸ	1	4D10	ｲﾆｼｱﾁﾌﾞ	視界	単体	自動	120%	
効果：他ｴﾌｪｸﾄと組み合わせ不可　対象はｲﾆｼｱﾁﾌﾞﾌﾟﾛｾｽにﾒｲﾝﾌﾟﾛｾｽを行う　このｴﾌｪｸﾄは対象が未行動でも使用でき、使用しても行動済みにならない　ｼﾅﾘｵ1回								
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ：ﾉｲﾏﾝ	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	-	
効果：	C値-(Lv)　下限7							
ｺﾝﾄﾛｰﾙｿｰﾄ	1	2+2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	-	
効果：	組み合わせた攻撃の判定を【精神】で行う							
万軍撃破	1	5	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ｼｰﾝ(選択)	対決	120%/破壊	
効果：	組み合わせた攻撃は「射程：視界」、「対象：ｼｰﾝ(選択)」となる　ｼﾅﾘｵ1回							
ﾌｪｲﾀﾙﾋｯﾄ	3	4	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	100%	
効果：	自身が行う攻撃のﾀﾞﾒｰｼﾞﾛｰﾙに+(Lv)D　ﾗｳﾝﾄﾞ1回							
時の枢	1	10	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	100%	
効果：対象が判定を行う直前に使用し、その判定を失敗させる　判定：自動成功のような判定を行わないものには使用できない　ｼﾅﾘｵ1回								
吸着	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	手に持っているすべての物体を落ちないようにするｴﾌｪｸﾄ							
くず鉄の橋	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	視界	効果参照	自動	-	
効果：	重力によって足場を作るｴﾌｪｸﾄ							
ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝｹﾞｰﾄ	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	至近	効果参照	自動	-	
効果：	空間を繋げるｹﾞｰﾄを作る							
ﾎﾟｹｯﾄﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	効果参照	自動	-	
効果：	空間を捻じ曲げ、あり得ないはずの空間を作り出すｴﾌｪｸﾄ							
軽快なる積荷	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	重さを無視して物体を持ち運ぶｴﾌｪｸﾄ							
効果：								

◆天狗に育てられた若き武士
大きな武家に生まれ、幼き頃から剣の才能を発揮し、師範とも互角に渡り合うほどの腕前を持っていた。
将来は勇猛な武士として大成することを大いに期待されていた。
しかし、二人目の子供ということもあり、親族は後継をめぐって二つに分裂してしまう。

あるとき、獅子丸が目を覚ますと、周りは見たこともないような山々が広がっていた。
どうやら、兄が後継になることを望む者たちによって、ここに捨てられたらしい。
数日間さ迷い、どうにか人里を見つけようと考えるが、そのまま力尽きてしまう。

二度目の生を受け、最初に目に入ったのは鼻の伸びた妖であった
昔話などで伝えられる天狗が目の前に居た。